

令和4年度 自己評価・学校関係者評価

星和台幼稚園
令和5年3月29日

本園の教育目標

◎理想の幼児教育を目指して子どもの成長と共に広がる幸せな世界を作り出します。

○伸びやかで明るい健康な子ども

●子ども一人一人の個性を大切にする

○感受性豊かなやさしい子ども

●絵本を通して豊かな感受性を育てる

●友達との遊びを大切にする

○よく考え工夫する子ども

●物を大切にして自分で考え工夫する子どもを育てる

○根気よく努力する子ども

●自然に触れる経験の場を大切にする

●思いやるやさしい心を育てる

今年度取り組む課題

- 1・ 感染症に対する学びを深め適切な感染性対策を行いながら参観型の行事の再開・充実感あふれる保育を計画実行する。
- 2・ 火災・震災・防犯に関する避難対策マニュアルの見直し及び構築 全職員把握
- 3・ 未就園児クラスの再開
- 4・ 子どもの異年齢交流
- 5・ 保護者との連携
- 6・ 発達支援を必要としているまた必要と思われる園児に対して個別支援教育計画をたて課題をはっきりとたて目指し育ちを見守っていく

評価項目の達成および取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1・	<p>感染症に対する学びを深め適切な感染性対策を行いながら参観型行事の再開・充実感あふれる保育計画を実行する。</p>	<p>3月の感染拡大を受け慎重に感染拡大対策を行いながら保育をスタートさせた。</p> <p>・職員や園児の不織布マスクの着用・保護者や外来者の園内立ち入り禁止・健康観察など緊張感をもって感染対策を引き続き行い子ども達そして子ども達の大切な人。職員も同様に命と健康を守り保育を止めないよう努めた。しかし5月感染拡大を機に学年閉鎖から園閉鎖を行った。保護者も状況を把握し園の指示に従い安心安全を第一に考えてくれたことは本当にありがたかった。全園児家庭と連絡を取り状況の把握を行った。コロナ感染対策は十分に行い年長児の思い出作りの遠足を計画し遂行できたことを期に各学年園外保育を行った。園外保育に行った子ども達の歓喜に沸いた様子に家庭からの感謝やねぎらいの連絡帳は職員の励みとなった。保育内レッスンの参観をクラス単位で時間を設けテラスから参観して頂く事で実行できた。</p> <p>近隣小学校で行っていた運動会であったが小学校自体が通常の運動会の開催とはいかず、まだまだ感染予防対策を緊張感ある中おこなっていた。今年度も幼稚園園庭を運動会会場として開催。発表会・雛祭り演舞発表・卒園式などの行事では参観人数2名の制限の中、行うことが出来た。飲食に関しては感染者が発生した場合の感染の経緯となる為レジャーシートの活用が有効であった。しかし子ども達のマナー低下を心配するところもあり来年度も課題としたい。</p> <p>日々の保育や毎年恒例の行事・製作などすべての事を始める前に見直しを行うため毎月20日は職員研修及び話し合いを終礼のほかに行った。非常に有意義な時間となった。</p> <p>《今後の取り組み》</p> <p>園の感染対策ラインをはっきりさせ保護者と共有していく。今以上、それ以上を目指して恒例や例年という言葉にならず毎回考え検討しカリキュラムを考えていく。</p>

	評価項目	取り組み状況
2・	火災・震災・防犯に関する避難対策マニュアルの見直し及び構築 全職員把握	<p>『火災に関するマニュアル』を作成し避難訓練を行ってきた。</p> <p>今年度は『震災に関するマニュアル』の作成を行い、2学期に消防署監修の元、避難訓練を行った。</p> <p>子ども達は「シェイク・アウト」の指示に合わせ、頭をかバンで隠し伏せる。職員の指示を待つという避難対策を学び、いつでも「シェイクアウト」と言われれば対応できるようになった。</p> <p>同時に室内の危険個所の確認。避難経路の障害物確認。緊急連絡先の確認など、丁寧な確認を行った。お互いに声を掛け合っの訓練所作は消防署の方から褒め認めて頂いた。</p> <p>バスの降ろし忘れによる死亡事故が相次ぎ危機管理意識を常に緊張して持つておくことが必要と考える。創立から46年間バスを使用していることから今まで人数点呼には重要案件として取り扱ってきたがこの案件に関してもマニュアルの構築が急がれ県監査を受け合格を受けている。</p> <p>各職員、来年度持ち場が変わる事もあり見直しを行いマニュアルの不備はないか点検を行う。</p> <p>《今後の取り組み》</p> <p>何より子どもの命を1番に考え子どもの心身の成長を中心に考えていく。</p> <p>進級児は引き続き、新入園児にもなるべく早く避難訓練のオリエンテーションを行いいざっというときの対応を確実にしておきたい。</p> <p>年長児と年中児は2階からの避難を始業と共に確実にしておくようにしたい。</p> <p>日々の生活の中の危険を第1回目の職員会議(始業前)では共有しておくようにする。</p>

	評価項目	取り組み状況
	未就園児クラスの再開	<p>1学期は自園でコロナ感染拡大による休園もあり、開催に踏みきる事は難しかった。しかし園の告知を行うには sns のみでは難しく昨年の入園児の様子から夏休みを数日園内開放日として設定することにした。暑さ対策や預かり保育の園児との同線の混合を避けるなど様々検討した。</p> <p>何よりよかったことは保育が行われているタイミングでの開放は一部の担当職員しか対応できなかった。今回は夏休みのタイミングにたくさんの職員が自ら参加を申し出てくれ、にぎやかな開催となった。本園自慢の大きなプールをベースに夏祭りのような体験をしながら園を見学してもらった。</p> <p>昨年に比べ入園の申し込みも増え開放を行った成果があったと活動に充実感を感じた。</p> <p>しかし、運動会や発表会雛祭りへの参観は難しく今後の課題とした。</p> <p>《今後の取り組み》</p> <p>『新型コロナウイルス』が『コロナ2019』と名称を変え第5類に分類されることを含め園内における参観授業を含む未就園児クラスを通常に戻していこうと考えている。</p> <p>昨年度に比べ入園児数が増えたことは励みになった。全体数の減少する中来年も一定数の入園が見込める様活動していきたい。</p>

評価項目	取り組み状況
子どもの異年齢交流	<p>今回始業時の年間計画においてコロナ禍であったことから外部との異年齢交流は断念した。</p> <p>各学年の遊び場や時間を分けていることもあり、預かり利用の子どもたち以外は交流が難しい日が続いた。園児同士の異年齢交流は「今年こそ行いたい行事」であったため、どのタイミングで行うのかを検討しながら3学期末行った。皆で忍者となり園内全てを使って思い出作りを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長組の卒園をさみしく感じる。 ・難しいアトラクションに対して手助けをするなど自分より幼きものに愛おしさを持って関わった。 ・他クラスの先生とたくさん関わる事で次年度のクラス替えに対しての戸惑いの軽減。 ・様々な職員の目から個々の成長を聞くことが出来た。 <p>《今後の取り組み》</p> <p>通常横割り保育を行っていることもあり異年齢交流は1年を通して行いたいプログラムではあるが担任がその機会を必要と思うことで年長の保育を参観しその活動に憧れたり、年長組の所作をモデルとすることで憧れを抱くなどコロナ化であっても出来る交流はあり、様々なメリットを感じ楽しむことが出来た。</p> <p>次年度に活かしていく。</p>

評価項目	取り組み状況
保護者との連携	<p>コロナ禍、日々の様子を伝える連絡帳やこまめな電話連絡などで個々の成長を伝えてきた。 コロナ禍でも充実した遊びを子ども達と経験する様子は SNS を通じて公開してきた。 保護者の皆様にとってもコロナ禍の励みになっているとのコメントをいただいた。</p> <p>運動会・発表会における観客人数の制限は「仕方ない」の気持ちも大きいですが職員の指示に従って 協力・理解を頂くことが出来た。 運動会は雨天順延での戸惑いもあり厳しいご意見もあったが話し合いを重ね園の思いを理解頂く事 が出来た。 役員活動は主任と協力の元行う。 各家庭の負担軽減・感染予防対策・園の方針と役員の皆様には役員として保護者も充実した活動が したいとの声を頂いた。園の思いを理解して頂く事に時間がかかった。</p> <p>《今後の取り組み》 全ての参観行事・役員行事を正常化していくが一旦どのような形が望ましいのか精査していく必要が ある。「本当に必要な事・もの・行事」の絞り込みを保護者と相談しながら行っていく。 父母の会総会も正常化となるであろうと思われる。</p>

評価項目	取り組み状況
<p>発達支援を必要としている また必要と思われる園児に 対して個別支援教育計画を たて課題をはっきりと目指し ながら育む</p>	<p>今年度、個別の教育支援計画の研修2回を受講し全クラス担任は作成を試みた。 具体的な内容で子どもの事を知りえない人が見てもその姿が浮かぶような資料を作成した。</p> <p>今年度は教育相談を利用した2名に追加して1名の個別の教育支援計画の作成を行った。 十分な打ち合わせと共に保護者・小学校教諭・幼稚園と育ちを共有することが出来た。 今年度は3人の小学校教諭の皆様が計画書を真ん中に話をきいてくれた。 指導要録に関しても模倣したかたちでありながら具体的に「伝わる」書類作成が出来た。</p> <p>《今後の取り組み》 今後とも記入の仕方について十分な学びを行い、引継ぎが子ども達の充実した次年度の歩みとなるよう引継ぎを行う材料としたい。 今までどんなに小学校に依頼しても成立しなかった会議が満足いく形でできた。今後のモデルとしていきたい。次年度改めて保幼少連携を立ち上げなおし計画していきたいと願う。</p> <p>書類の制作に関して担任教諭に作成から小学校引き渡しまでの流れと書類の必要性・コンプライアンスを共有する。</p>

総合的な評価	評価理由
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p>	<p>感染症に負けることなくどのような事でも「～できない」ではなく「どうしたらできるか」「どうしたら膨らませるか、深まるのか」を考え、子ども達の表出に合わせ学び進めてきた。</p> <p>形式や制限にとらわれない考えを職員と考えてきた。</p> <p>感染者が増加の一途をたどりかけた5月、保護者の協力の元、完全な休園を行い感染者0にできたことは安心となった。その後の保護者参観型の行事は保護者の満足いく形であったか……。と考えた時、やはり感染予防対策を最優先に考察して計画した形であったことはもどかしい思いが残る。</p> <p>しかし、子どもの心身の健康を最優先に考えていく本園の安全対策には自信をもって計画の最優先課題として計画を進めていきたいと考えている。しかし、その考えには保護者の理解と協力は不可欠であり、どのような場合においても不安や戸惑いに寄り添い、保護者との個別な連絡を密として行きたい。全力に課題に向かって取り組んではきたが参観に制限がかかっていた行事計画からの出口戦略へのより深い考察を今後に生かす意味で評価はBとしている。</p> <p>感染症対策は不要であるような流れもあるが、園としては出来る限り保育を止めないよう対策は行いながら努力していきたい。</p> <p>《今後の取り組み》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・ 感染症に対する学びを深め適切な感染性対策を行いながら参観型の行事の通常再開・充実感あふれる保育を計画実行する。 2・ 火災・震災・防犯に関する避難対策マニュアルの見直し及び構築 全職員把握 3・ 未就園児クラスの通常再開 4・ 行事の見直し 働き方改革 5・ 個別支援教育計画の制作スキルを上げ課題をたて育ちを見守っていく

学校評価委員の評価	評価理由
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p>	<p>感染症に対する対策、保育者にとって厳しい世情などがある中、子ども達や保護者に寄り添い努力し続けている先生たちの姿勢が子ども達の伸びやかに元気に駆け回る姿に反映されていると思う。理事として卒園式に出席できないことは少し寂しくも感じるが、園庭の子ども達の姿で十分に育ちを感じることが出来た。</p> <p>園内清掃にも努力しており好感が持てる。</p> <p>補助金で購入された品物が有効利用され、休んでいるものがない。</p> <p>よく考察して補助金の意味を理解し購入していることは理事全員の相違の元の信用・信頼に値する。「できない」ではなく「どうしたらできるのか・ふかまるのか」と考察する姿勢は今後とも休むことなく努力し続けてほしい。何事も「当たり前」に行くことなく検討しなおし、より良い形を子どもの声や表情・成長の姿を中心に考えて教育計画を行ってほしいと願う。</p> <p>『保護者の声』に転勤が決まり問い合わせの連絡を入れた際、先生の声がすべての不安を消してくれました。との記述がありました。転勤の多い地域性もあり一人で不安な気持ちと闘いながらの子育てをしている方も多いかと思う。今後とも状況に寄り添い、子どもの発達状況に寄り添い温かな関わりを星和台幼稚園の全てとしてほしい。</p> <p>そして先生方の心身が健康であり続けるように願っています。</p> <p>幼稚園教諭の確保に引き続き協力する。</p>

令和 5年 3月 24日

学校評価委員

学校評価委員

